



風呂側から庭を見る



アプローチから室内を見る



庭から屋外リビングを見る



子供部屋側から見る



余白に住む



キッチン側から見る



平面図

1 コンセプト

住宅に付加価値をプロットするには

今の住宅は機能を隙間なく詰め込むことで、ムダのない快適な日常生活を送っている。しかし、すでに機能が与えられている住宅には自分が求めている空間を入れる余地がない。そのため、私たちは機能を持つ空間の中に自分の求める空間を一時的に作り出している。

その例として押し入れが挙げられる。元々収納の機能を持つ押し入れに小さな家具を持って入り、隙間から差す光の量を調節するなどして自分が求めた空間に近付けた。

このように、現在の住宅には自分が求めている空間を作り出す場がないのではないか。そこで、機能を持つ空間の間に余白を生み出すことで、自分たちが求める空間を作ることができる。

私たちはその余白に付加価値を提案する。

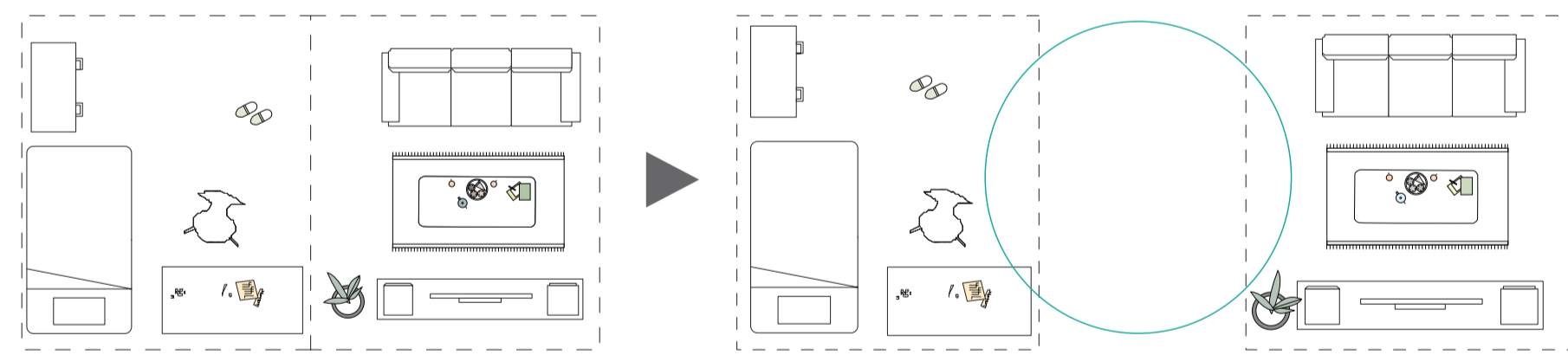
提案する付加価値について

遠足のおやつは金額が制限されるからこそ、限られた中で自分が選んだお菓子には値段以上の価値を感じることができる。

このように、手間ひまや遠回り、苦労があることで本来は体験しない豊かさを感じるきっかけとなる。

そこで私たちは、住宅内をあえて不便にすることで喜びや発見が生まれるきっかけを作り出した。意識的に不便となる場所を作りだすことで工夫の余地や気づき生まれ、住宅に新たな付加価値が生まれる。

2 余白を生み出す

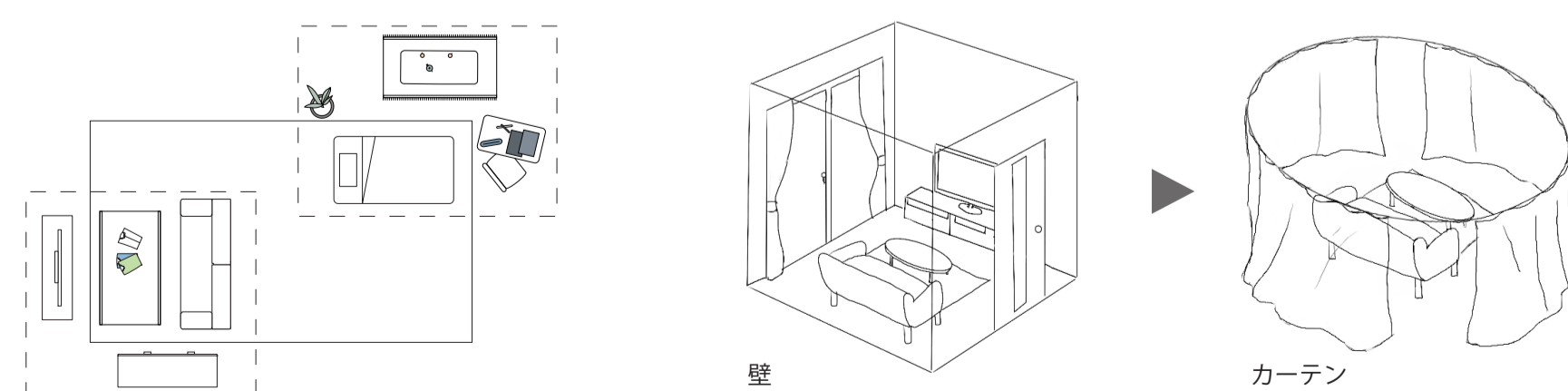


現在の住宅

機能と機能の間の余白

現在の住宅は、機能と機能の間に隙間がなくムダのない快適な生活を送っている。そこで、機能を持つ空間の間に余白を生み出すことで自分たちが求めている空間、つまり付加価値を入れる場を作りだすことができる。

4 機能を余白に押し出す



壁

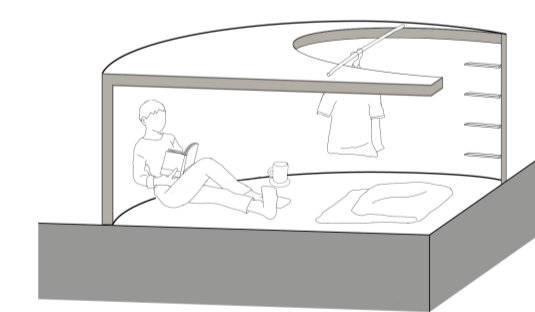
カーテン

現在の住宅はリビングなどの機能が部屋の中にあるが、その機能を余白に押し出すことによって機能を持つ空間にも付加価値を与える。

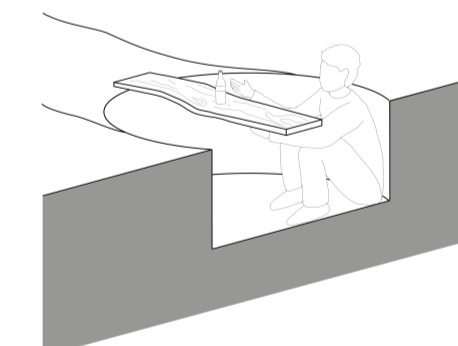
機能を持つ空間を囲むのは本来壁であったが、カーテンに変えることによって空間を区切る境界が曖昧となり機能を部屋の外に滲み出すことができる。

3 余白に付加価値を生み出す

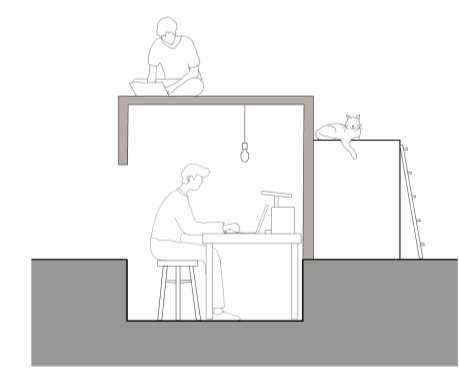
生み出した余白の中に、付加価値の要素として住宅内の至る所に穴を設置する。この要素は日常生活を送る上で障害となるが、その障害である穴をどのように変化させていけば、豊かな空間にできるのかわかり方を工夫し作り出す。そうすることで自分の求める居場所を生み出すことができる。



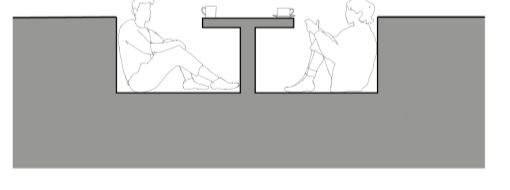
敷地の高低差 1300mm を利用し、床下に空洞を生み出す。天井が低いという不便はあるが、落ち着いた空間になる。



人が通る場所に穴を作ることで、木の板をかけて橋として渡ったり、穴に入って本を読んだりすることができる。



人が通るところに障害物となる洞窟のような穴を作ることによって、狭い場所で籠ったり、その上に乗ることができる。



リビングの外空間にドーナツ上の穴を開け、その中に人が座りご飯を食べたりいつもと違う目線で座ることができる。

5 断面図

